

「都市型水害に対する都内鉄道各社の対策と課題」

土師友香

概要

近年、毎年のように日本各地で豪雨災害が発生している。その背景には、地球温暖化による影響があると考えられており、今後も発生する可能性が十分考えられる。また、都心では地下鉄や地下街が発達している上、鉄道の相互乗り入れを実施している箇所も多いため、たった一か所から地下へと水の流入が発生した際にも、その影響が広範囲に及ぶ危険性がある。

本論文ではこれまで日本で発生した 2000 年 9 月東海豪雨と 1999 年 6 月福岡豪雨災害の事例分析を通し、その共通点や教訓から、都心を運行している鉄道会社が防災施設の充実と避難訓練などといったハード面とソフト面、双方から対策を講じることによって、被害の軽減を図ることを提案するものである。